

特集

フォーラム 2014 報告

全国被害者支援ネットワークは日本被害者学会、犯罪被害救援基金、警察庁との共催で「全国犯罪被害者支援フォーラム2014」を10月3日(金)午後1時から東京都千代田区のイイノホールで開催しました。今回のテーマは「犯罪被害者支援における直接的支援について」で、全国から被害者支援センター、行政機関、警察などの関係者に一般の方々を加え、計約500人が参加しました。

フォーラムは2部構成で、第1部では全国被害者支援ネットワークの平井紀夫理事長が開会あいさつ＝写真＝で、全国48被害者支援センターが昨年1年間に行った支援活動22,337件のうち、直接的支援が4割近い8,307件にのぼる現状を示し「このフォーラムで直接的支援のあり方や留意点をしっかり学んで被害者支援の一層の質の向上につながるよう願っています」と述べました。

引き続き犯罪被害者支援功労者表彰が行われ、特別栄誉章3名、栄誉章6名、犯罪被害者支援功労団体3センター、初の犯罪被害者支援功労職員1名がそれぞれ表彰されました。また犯罪被害者支援活動への格別な支援・協力に対する感謝状が2名の方に贈られました。続いて来賓祝辞を山谷えり子国家公安委員会委員長(前田晃伸同委員会委員代読)、村越進日本弁護士連合会会長(村田智子同会犯罪被害者支援委員会副委員長代読)からいただきました。

このあと「被害者の声」として、あおもり被害者支援センター理事で被害者遺族の山内久子さん(秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科教授)に「ある日突然最愛の娘を奪われて～犯罪がその後にもたらすもの～」と題する講演をしていただきました。

山内さんの長女陵子さんは横浜で一人暮らしをしていた大学3年生、21歳の平成7年10月2日、帰宅を待ち伏せていた言葉さえ交わしたことの無い男子学生に全身を刺され、命を奪われました。あまりにも酷い犯行で、山内さんは陵子さんの命と夢、青春を無残にも奪ってしまった犯人に対する怒りや悔しさとともにご家族の深い悲しみ、苦しみの数々を振り返られました。また、直接的支援がまだ少なかった当時、青森から横浜の検察や裁判所に出かけた時の孤独で心細かったお気持ち、そうした場での被害者への冷ややかな対応、さらに19年経っても癒されていないご自分の心情などを切々と訴えられ、直接的支援に携わる者には、しっかりと心にとどめておきたいお話でした。(詳報は6ページに)

引き続きフォーラム第2部は「犯罪被害者支援における裁判付き添い等直接的支援の課題と今後の展望」のパネルディスカッションで、検察、警察、支援センターからのパネリストが山内さんを交えて議論しました。このなかでは、被害者や遺族の方を支援する法制度や仕組みと具体的な配慮・気遣いなどについて、それぞれの立場から報告され、直接的な支援がようやく整いつつある現状が示されました。とはいえ、対応する人によって落差が大きいことや、被害者・遺族や支援者が望んでも実現していない問題、さらに関係機関・団体間の連携などの課題も明らかにされ、制度・仕組みと支援者の実践力の両面で一層の充実を目指す必要性が確認されました。(詳報は7ページに)

最後に黒沢正和犯罪被害救援基金専務理事が開会あいさつを述べ、午後5時閉会しました。